



Fore Please / 世界ゴルフ

識聞録

ゴルフビジネスのプロが30年以上回って見て聞いて感じた世界のゴルフ文化をお伝えます。今回はトッププロたちの移動についてのお話です。

地域によって空気が変わるゴルフの醍醐味。

今年もアツという間に12月ですが、海外取材や交渉のために飛び回っていた日々の中で、時差だけでなく各国の「空気」の違いを感じた一年でもありました。

この「空気」を説明するのは難しいのですが、例えばハワイに到着した時に、開放的なターミナルに流れている海の匂いのする風を感じられた瞬間、という感覚に近いかと思えます。マスターズでのオーガスタ空港は小さいローカル空港なので、飛行機にはタラップで乗降しますが、ドアに立った瞬間にアメリカ南部独特の初夏のような空気に迎えられます。先日アジアパシフィックアマチュア選手権が開催された香港でも空港を一步出た瞬間の匂いと音の違いを実感しました。

空気が変わる瞬間は一つの楽しみですが、自然を相手にするゴルフにおいては、選手たちが気を揉む要素です。シーズンを通して変化する気候やゴルフ場との相性、参加する選手層などを考えて行動しているの、トップ選手たちは専門家をスタッフに入れて事前にリサーチをし、条件によっては参加を見送るようなこともあります。ゴルフの基本はありのままの状態です。プレーすることですが、プロに

とっては仕事の場。空気の変化にも敏感にならざるを得ません。

プライベートジェットで対応した2人のスター。

近年、コンデイションングに有利なものと移動時間の節約のため、選手たちの移動はプライベートジェットが主流となつていますが、最初にプライベートジェットを利用し始めたのはアーノルド・パーマーですね。56年に自家用機のライセンスを取得して傘マークがドアにペイントされているジェット機を自ら操縦することでも有名でした。70年代には飛行機で世界一周の記録を作ったりするほどの愛好家でもありました。同時期にニクラウスなどスター選手たちも同様に自家用ジェット機でオーガスタ空港に到着していたのをよく見ましたが、自家用車のナンバープレートのような個体番号(テールナンバー)が尾翼に記入されていて、パーマーとニクラウスだけは自身のAPとかJNなどイニシャルが最後に入っていました。どっちのジェット機が大きい! などと比較をして、まさに空中戦を繰り広げていました。

Vol.25
選手の移動手段

スター選手になつても移動の仕方が変わらない選手もいました。例えばフアジー・ゼ

空気の变化にも対応して移動するのが一流の条件



ラーは、マスターズ王者になつてもキャディの運転する車で一緒に移動したり、我々と同じデルタ便でオーガスタ空港に到着して、キャディバッグが出てくるのを待っていることもありました。

世界に挑戦する日本の選手たちも、早めに現地に入つて時差調整をして、コースの確認に時間を取るようになりました。青木さんや中嶋さんが日本でのツアーを主戦場にしながら海外の試合に遠征されていた当時は、日本の試合が終わった翌日の月曜にメジャー大会に向けて出発し、現地入りするとすぐに練習ラウンドをこなされていた時期もありましたが、今思うと彼らの順応能力は素晴らしかったです。

空気の違う土地で勝負をする選手たちは気候の変化への対応ができてこそ一流と呼べるのかもしれない。



ゴルフビジネスのプロフェッショナル
神野方仁(じんの・みちひと)

1956年生まれ。テレ・プランニング・インターナショナル株式会社代表取締役社長。国内外のさまざまなスポーツビジネスに関わり、中でもゴルフはマスターズのようなメジャー大会からジュニアゴルフに至るまで、イベント、放送、広告、マーケティングなどの面に長年携わっている。日記を公開中 Fast Track Michi's Diary/www.tpi-j.co.jp/ceo_blog/

イラスト/ソリマチアキラ